山行報告

■新竜アルプス(祇園嶽・的場山・鶏籠山)

●日　　程：１月１７(土)

●参　加　者：Ｌ上田 SL 山本(正) 岡本 狩集 北村 坂田(俊) 田中(由)
中村 苦瓜 平井(正) 前川(克) 舛賀 村上

●行 動 記 録：JR 新宮駅 8:15～市野保(8:45 着)8:55 発～搦手道登山口 9:20～十字路 9:45～祇園嶽(9:55 着)10:00～十字路 10:05～亀池(10:35 着)10:45 発～亀山(城山・11:12 着)昼食・11:30 発～的場山(12:55 着)13:05 発～鶏籠山(13:55 着)14:05 発～龍野城(14:30 着)14:40 発～JR 本竜野駅 15:30

◆◆小雪舞う涅槃山を縦走する　　田中(由)

当日は、まずまずのお天気で初めての姫新線で播磨新宮まで行き、３０分程歩きストレッチをしてスパッツを着け川沿いを登り祇園嶽に着くころから風が出てきた。

リーダーの上田さんが「ここからは尾根を行くので風よけ対策のため衣服を調整して下さい。」と、声を掛けて下さった。

暫く行くと飛ばされるかと思うぐらい風が強くなり雲行きも怪しくなってきた。

亀の池の手前のあたりは大きな石が多く石の供養塔・かえる岩・かめ岩など教えて頂きながら楽しんで歩けた。亀の池は以前、大倉山山行で竜野の方から来たことのある場所だった。

早めのお昼を亀山で済ませ、出発する頃から小雪になりレインウェアを着て的場山までの小１時間は雪が降り続いた。辺りは何も見えなくなりアップダウンが多く、健脚な方ばかりの中、私にとっては厳しい山行でしたが、わきあいあいで参加させて頂いてよかったと思います。

メンバーの皆さんお世話になり、ありがとうございました。

そして、これからもよろしくお願いします。

■天狗山

● 山　行　日：１月１８日(日)
● 参　加　者：La 尾越 SLa 瀬尾 井上 上川 粕谷 清水 時井 舛賀 山本(清)
Lb 待場 SLb 三木(悦) 田中(重) 田中(美) 田中(由) 苦瓜 峯山
平石 増田
●行 動 記 録：コミュニティＳ(9:20 着)9:40 発～八幡宮登山口(9:40 着)～山頂まで 1.2 ㎞標識(10:05 着)10:10 発 ～前山(小天狗 10:45 着)10:50 発～天狗山山頂(11:00 着)11:35 発～中峰(12:00 着)～三ツ(12:25 着)12:30 発～西登山口(13:10 着)～コミュニティＳ(13:30 着)13:40 発

◆◆「天狗山」　　清水

２０１５年最初の山行。喜び勇んでバスに乗り込んだ途端、「感想文を書いて下さい」の役割がきました。さあ！困ったことになりました。小生の不得意な分野。

何を書いたらいいのか？（ぐつぐつ言わんで、早よ書け！）

頂上に着き昼食をとりました。皆さん少なめでした。私は餅半分、極小のロールパン１個で、今迄こんな少ないのははじめて！（何を言う。わざわざもらって、意図的だろうが！）

巨石の上に立って写真を撮っていて、人間って高い所大好き。

下山をし、少し待って、待望の『牡蠣のお好み焼き』を食べながら、ビールで乾杯をし、無事を祝いました。本日のリーダーさんご苦労さんでした。

２番手に大変気を使っていましたヨ。【やっている姿を感謝で見守って、信頼せねば、リーダーは実らず。】今日の山行、特選です！

『木登りの名人と呼ばれている男が弟子に木に登らせて、高い所では何も言わず、軒先まで降りてきた時に、【気を付けて降りろ】と声をかけた。』

何で？『目眩がするくらい危ない枝に立っていれば､怖くて自分で気をつけるでしょう。

だから何も言う必要はありません。【事故は】安全な場所で【気が緩んだ時こそ起こる】のです。』

■三室山(アルプ)

● 山　行　日：１月２２日(木)
● 参　加　者：L 竹内 SL 砂川(延) 尾越 佐々木 須増 三木(悦) 和田
● 行 動 記 録：JR 宝殿駅 8:00 発－竹呂登山口(10:15 着)10:40 発 ～輪環装着(10:55 着)11:10 発～青少年野外活動Ｓ跡(11:30 着)11:40 発～衣服調整(12:00 着)12:05 発～昼食(12:30 着)13:00 発～標高 1150ｍ地点登頂残念する(14:10 着)14:15 発～休憩(水分補給 14:30 着)14:35 発～三室登山口(14:50 着)～竹呂登山口(15:30 着)15:50 発

◆◆ 三室山(アルプ)～感想文　　須増

山行の２日前、気象担当の佐々木さんから「２２日の天気は、芳しくない」とのメールが届いた。当日の最終集合場所＝宝殿駅北口を８：００に出発する。車２台で、姫路バイパスから国道２９号を通り千種町に入る。雪は、周辺の畑などを見ると意外に少ないと思えた。その後、川井の「ちくさ高原スキー場」への入り口を過ぎて西河内の「竹呂山」登山口の駐車場に停車する。これより先は、除雪がされていなかった。

現地では、雪は全く降っておらず、(ヤマテンの宍粟市の予報では、この日は、風が弱く雨も１～２ｍｍと少ない。午後は、良くなる傾向）良好で、文句ない天候になっていた。

登山の準備とストレッチをして出発する。駐車場から先は、積雪量も約５０ｃｍ近くあった。暫く靴のみで歩き１５分ほど行った所で、足がズボスボとはまる(今回､ストック先端のリングを持って来ていなかったので余計に歩き難い)。ここで「ワカン」を装着するように竹内リーダーの指示が出た。その後、三室高原を登り、標高８５０ｍ付近で昼食を取る。

いよいよ山頂を目指して斜面を登っていく。ここからトップを一度交代して登るが､今回は､日程が平日でもありトレースがほとんど見えないことや経験不足から、決めた目標ルートからずれ幅を小さく歩くのが難しい。下の雪の状況をストックで探りながら進むも、無雪期と異なりやはり相当な体力も必要と痛感する。しかし、体力的には、問題なかった。

標高１０５０～１１５０ｍの一番きつい斜面をラッセルして登り切ると、傾斜も少し緩くなりピークまで後２００ｍの所まで来たが、時間は１４時前で、引き返しのタイムリミットになっていた。(「山行計画書」では：積雪量によって、山頂に着かなければ午後２時で下山する計画をしていた)。この先、後少しで残念だったが、潔くＵターンを決めて下ることに決定。登るのは、大変だったが、みんな下るのは、速い。ワカンを付けての歩き方も下りの方が難しいと思いながら下る。

帰宅後、ヤマレコの参考記録を調べてみると１月１７日（土）１２名のパーティで、天候：雪の中を８：４５に出発し１３：００に登頂していた。今回、残念ながら時間不足で登頂できなかったが、次回は、出発時間を１．５～２時間ほど早めることで、頂上を極められるのでは？と考える。次回、リベンジしたい。山行後、「エーガイヤちくさ温泉」に入浴し、汗を流して気持ちよく帰路に就く。雪山の厳しさを楽しめた一日であった。また､行きたくなった。

・・・これまで、ワカン装着登山の経験は、皆無であったが、雪山での効果が分かった。

直前に購入したパイプフレーム部は、水平の形のものであったが以外に軽かった。その後、ワカンには使用の材質は別として、大きさが大小あること、種類も先端が反り上がっている形状のものがあること、アイゼンとの併用では、ワカンを上下逆向きにして履くなどの利用方法があることを知った。